小腫瘍

▶使用器具　▶評価ポイント

イボのような小さな腫瘍を処置する術式。小腫瘍は腫瘍とは違い、レーザーで患部を焼却して治療する。その後、焼却時に発生したレーザー痕にヒールゼリーを塗れば処置完了となる。ただし、レーザー痕から血だまりが発生した場合は、治療まえに血だまりを吸引しておくこと。腫瘍摘出時に小腫瘍が発生した場合は、腫瘍の切除痕を治療するまえに小腫瘍を焼却し、人工膜を定着させるときに使うヒールゼリーでレーザー痕も同時に治療してもいい。



小腫瘍はひとつひとつ治療するより、いくつかまとめて焼却し、一気にヒールゼリーを塗って治療するといい。



小腫瘍焼却時に発生した血だまりがほかの小腫瘍の上に広がることがある。その場合は血だまりの吸引を優先だ。

【手　順】

1	レーザー	小腫瘍を焼却する
2	ヒールゼリー	レーザー痕に塗る

大裂傷

▶使用器具　▶評価ポイント ○

大きく裂けている傷口の処置を行なう術式。まず傷口にある血だまりをすべて吸引しよう。つぎにピンセットで傷口付近の皮膚をつまんで傷を閉じ、裂傷と同様に傷口をジグザグに縫合すれば術式完了だ。傷口の血だまりが再発したり、縫合が遅れて閉じた傷口が開いてしまうと、血だまりの吸引からやり直しになるうえ、その後の縫合をうまく行なっても「Cool」評価は獲得できない。そのため、すべての処置を休む間もなく行なう必要がある。



ピンセットで傷の端をつかみ、内側へ動かして傷を閉じる。「Ok」と表示されるまで皮膚を離さないようにしよう

評価ポイントに関わる要素

- 血だまりが再発するまえに手順を終える
- 傷口をミスなく閉じ、傷口が開かないうちに縫う
- 縫合線の長さが規定以上あり、左右の幅が正確
- 縫合の折り返しの回数が規定以上ある

【手　順】

1	ドレーン	血だまりをすべて吸い取る
2	ピンセット	患部の傷口を閉じる
3	針と糸	閉じた傷口を縫う

銃創処置

▶使用器具　▶評価ポイント ○

弾痕を治療する術式。銃弾を引き抜いたあとの弾痕も同様の処置で治療する。血だまりを吸引し、人工膜を患部に乗せてヒールゼリーで定着させれば処置完了。血だまりの再発回数が評価に影響するが、人工膜を乗せた状態で血だまりが再発した場合は評価対象外になる。



人工膜が血だまりの再発で剥がれても、正しく処置を行なっていれば、その後の処置で「Cool」を獲得できる。

評価ポイントに関わる要素

- ミスなく人工膜を患部に乗せる
- 血だまりが再発するまえに人工膜を乗せる

【手　順】

1	ドレーン	血だまりを吸い取る
2	ピンセット	人工膜を銃創に乗せる
3	ヒールゼリー	人工膜を定着させる

銃弾摘出

▶使用器具　▶評価ポイント ○

体内に埋まった銃弾を摘出する術式。まず弾痕の血だまりを吸い取り、弾痕に表示されたガイドラインにメスを入れる。つぎに発生した血だまりを吸引して銃弾をピンセットで引き抜く。弾の摘出に成功したら回収トレイに弾を乗せて処置完了。残った弾痕は銃創処置の手順で治療しよう。銃弾摘出の評価には弾を抜く角度が大きく影響し、傷に対してほぼ垂直(88～92度)で抜けば「Cool」、垂直に近い角度(85～87、93～95度)なら「Good」になり、角度が悪いと「Miss」でやり直しになるうえ、評価は必ず「Bad」になる。



バイタルが低下している状態で行なうことが多いため、銃弾の引き抜きに失敗すると手術失敗になりかねない。

【手　順】

1	ドレーン	血だまりを吸い取る
2	メス	銃創を切り開く
3	ドレーン	血だまりを吸い取る
4	ピンセット	銃弾を引き抜き、トレイへ運ぶ

評価ポイントに関わる要素

- 血だまりが再発するまえに処置を終える
- 正しい角度で銃弾を引き抜く
- 引き抜いた銃弾を落とさずにトレイへ運ぶ

心細動、術野揺れ

▶使用器具 ―　▶評価ポイント ―

心臓の鼓動が激しくなったり、術野が大きく揺れる状態。心細動発生時は鼓動が激しくなり、たいていが本震へ移行する。本震に切り替わったり、術野揺れが発生しているあいだに処置を行なうと「Miss」になり、心細動のときは必ず心停止になってしまう。音を聞き分け、鼓動が激しくなったり、オペレーターの指示があった場合は術式を止めよう。

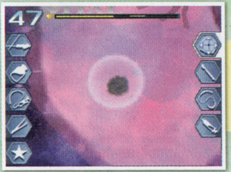


心細動が発生すると心拍音が高鳴る。心拍数を示すゲージが大きく動いているあいだは手を止めておこう。

内出血

▶使用器具　▶評価ポイント ○

黒ずんだ血だまりを処置する術式。内出血は普段見えないため、エコーで場所を特定し、メスで患部を切開する必要がある。切開後はたまっていた血を吸い取り、切開口を縫合すれば処置完了。切開口が小さいことで縫合を細かく行なう必要があるが、血だまりの再発が速いので極力素早く行ないたい。なお、内出血には悪化するものとしないものがあり、悪化タイプは発生から少しずつ大きくなり、一定時間で患部が裂け、血だまり裂傷に変化する。



エコーで患部周辺を当てると、黒ずんだ血だまりが確認できる。血だまりにメスを入れて血を外に出そう。

【手　順】

1	スキャナ	患部の位置を特定する
2	メス	内出血を切開する
3	ドレーン	血だまりを吸い取る
4	針と糸	切開口を縫う

評価ポイントに関わる要素

- 血だまりが再発するまえに切開口を縫う
- 縫合線の長さが規定以上あり、左右幅が正確
- 縫合の折り返しの回数が規定以上ある